

## ご 挨拶



第59回日本心血管インターベンション治療学会 北海道地方会  
会 長 小野 太祐 北見赤十字病院 循環器内科

2024年10月19日、第59回日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)北海道地方会の開催にあたり、ご挨拶申し上げます。

今年7月には、五十嵐康己会長のもと、第32回日本心血管インターベンション治療学会(CVIT 2024)学術集会在札幌で開催されました。各会場はほぼ満員で立ち見も多く、活発な議論が交わされておりました。北海道のCVIT会員として、非常に喜ばしく、またインターベンション治療の未来は明るいと確信いたしました。その熱気が冷めやらぬ中で、今回、地方会の会長を拝命し、身の引き締まる思いでございます。

私が循環器医を志した頃と比べますと、医療技術や知識の進歩は目覚ましく、冠動脈、末梢血管、弁膜症など各分野で、内科医が治療できる領域は大きく広がっています。個人で全領域に対応することは難しくなり、専門性を持って治療にあたる必要性が増しています。一方で、専門に特化しすぎることによって、かえって患者さんの状態を見失い、適切な治療が行えなくなるリスクもあります。患者さんの疾患形態も高齢化に伴い変化しており、臨床においても柔軟な対応が求められています。必然的に研究会の意義や役割も変わりつつあります。今後、本地方会がどのような取り組みを行い、どのような価値を提供できるかが問われていると感じています。

本地方会の特別講演は、三井記念病院の田邊健吾先生をお招きしました。PCIにおけるステント治療がほぼ完成形に近づいた現在、田邊先生にはステントレス治療の現状と未来についてご講演いただきます。

一般演題には19題もの応募をいただきました。地方会の要は一般演題ですので、多くの応募に感謝申し上げます。いずれも実践的な内容であり、皆様との知識や経験の共有を深めていきたいと考えております。

前回から新設された研修医セッションも、今回引き続き実施いたします。合計4題の応募をいただきました。未来の循環器医療を担う若手医師の皆さんによる発表を通じて、今後の発展につながることを期待しております。皆様の活発なご意見を賜れば幸いです。

また、メディカルスタッフセッションにも多数のご応募をいただき、心より感謝申し上げます。日々治療を支えてくださるスタッフの技術と知識の向上は、CVITの発展に欠かせない重要な要素です。活発な討論と経験の共有を期待しております。

YIA、ビデオライブ、ランチョンセミナー、アフタヌーンセミナーも、それぞれ非常に興味深い内容をご用意いたしました。ご協力いただきました会員の先生方や企業様には、深く感謝申し上げます。多くの会員の皆様とともにディスカッションを重ね、実り多き地方会となることを願っております。何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に、本会開催にあたり、多大なるご支援とご尽力を賜りました支部役員、会員の皆様、事務局、ご協賛いただいた企業や関係各位に、重ねて心より感謝申し上げます。